

友の会通信

123

2024.3

Vol.27 No.4 通巻123号 2024年3月15日発行(年4回発行)



「箱根駒ヶ岳山頂付近のキクザキイチゲ（キンポウゲ科）」

県内では主に丹沢、箱根に産する。花色は白、薄紫と変化に富み何ともかわいらしく箱根の春を感じさせてくれる。(友の会 小久保恭子)

目次

事務局より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
行事案内	9

事務局より

2023年度友の会第5回役員会の開催

2023年12月16日（土曜日）午後より、第5回友の会役員会を開催しました。

最初に会計等について、現在の会員数及び収支についての報告と、中間会計監査の結果報告（問題なし）がありました。事務局から来年度に向けた会員証更新作業などや来年度の役員会及び講座担当者会議の日程などの提案がありました。また総会については、4月28日（日）に博物館講義室で行うことが決定しました。その他、総会イベントや懇親会について、方向性等の確認がされました。なお、総会後に郵送でお送りしていた総会報告書については、まずはブログ等でお知らせし、6月の発送で資料を送付することとしました。企画部からは、来年度の行事計画の確認依頼及び3月9・10日に開催されるミューズフェスタ2024についての内容等について確認を行いました。博物館からは本日から来年1月8日まで行われる子供科学作品展の紹介がありました。

12月にしては暑い一日でしたが、効率よく（いつもより早めに）開催出来ました。

2023年度友の会第6回役員会の開催

2022年2月10日（土曜日）午後より、第6回友の会役員会を開催しました。

事務局では4月28日（日）開催予定の総会に向けた作業等について、イベントについては田中館長による講演がきまったこと、懇親会は今年も中止とすること、などが話し合われました。企画部からは、来年度の行事計画の確認、講座担当者会議の開催（3月2日）、講座の受付方法について、「地図を楽しもう」に続き、植物グループも来年度からWEBフォームを導入することなどが報告されました。その他、2月17日のサロン・ド・小田原（瀬能学芸員）やミューズフェスタ2024についての作業等などの確認が行われました。

また、今年もミニ展示コーナー企画展『友の会活動ポスター展』を開催します。期間は3月24日から5月6日までです。来館された際にはぜひご覧ください。

情報クリップ

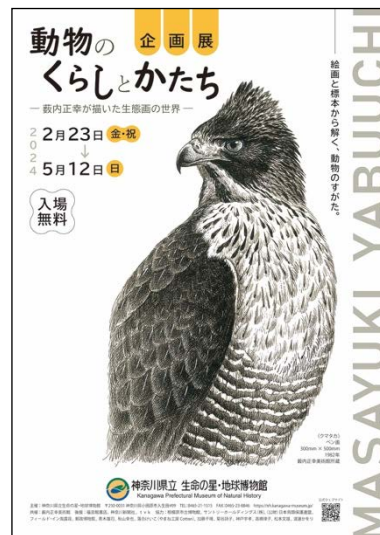
2023年度 友の会会員数：366名（1月31日現在）
正会員：363名／賛助会員：3名

●会員更新の手続きについて

会員更新の手続きは、お済みですか？2月に振込用紙を発送しておりますので、再度ご確認のうえ、更新の手続きをお願いいたします。

また、今年度（2023年度）から単年度納期のみに変更になっております。振込用紙は、次年度の会費をご入金済みの会員様にも送付しておりますのでご了承ください。

●企画展「動物のくらしとかたち―藪内正幸が描いた生態画の世界―」のお知らせ



開催期間：2024年2月23日（金・祝）

～5月12日（日）

動物のしぐさや彼らがくらししている環境を描いた「動物生態画」は、図鑑や絵本などに広く使われてきました。今回の展示では動物画家として著名な藪内正幸氏の絵画を動物の標本や写真とともに展示し、生態画の意義や動物のくらしぶり、かたちの多様さを紹介します。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画普及課 TEL: 0465-21-1515/FAX: 0465-23-8846

・ウェブサイト：<https://nh.kanagawa-museum.jp/>

・公式X：@seimeinohoshiPR

・混雑情報X：@seimeinohoshiCI

活動報告（よろずスタジオ）

◆「葉っぱであそぼう！」

2023年11月19日（日）／博物館東講義室／77人
（大人42人、子ども35人）／スタッフ：8人

「葉っぱで遊ぼう」の部屋に入ると、白板いっぱいに飾られた色とりどりの秋の植物が迎えてくれました。「うわ〜、きれい！」「早く何か作りたいな！」今回用意したのは次の3つです。

1. 葉っぱの窓 2. 葉っぱのこすりだし 3. 葉っぱをつけてみんなの木をつくろう

落ち葉1枚を手にして、子どもも大人も、とても楽しそうでした。その様子にスタッフも元気をいただきました。小田原短大保育科の2名の学生さんが若い力を発揮して下さいました。

30分完全入れ替え制で4回繰り返しました。

（浜岡史子）



晩秋の野山をイメージし会場を新鮮な葉で飾る

1. 丸や三角の窓に赤や黄色の葉を貼る



精一杯手を伸ばし光にかざす



「僕たちのお面、かっこいいでしょ」

2. 葉っぱのこすりだし

紙の下に葉っぱを入れ、クレヨンでこする。



「パパ紙を押さえる人、僕塗る人」

3. 葉っぱをつけてみんなの木をつくろう

枝だけ描かれた木に好きな葉を貼る。



「僕はこの葉がいい」「わたしはこの赤いの」



最後の一枚、貼れたら完成



出来上がったみんなの木

◆「砂とあそぼう！」

2024年1月14日（日）／博物館東講義室／106人
（大人58人、子ども48人）／スタッフ：8人／担当：石浜学芸員・田口学芸員

砂の様々な性質を紹介しながら、砂を使ったいろんな自作おもちゃを体験してもらいました。

サハラ砂漠の砂を紙の上をかけ、穴から落として模様を作ったり、できた山の稜線を観察したりするコーナーは、離れられなくなるお子さんも続出。触り心地や音から、どの砂かを当てるクイズコーナーも人気でした。



砂をかけることに夢中になる子が続出



不思議な模様が浮かび上がります



どんな稜線があらわれるでしょうか

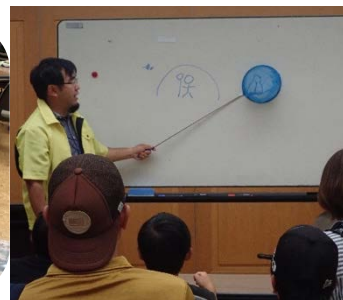
<<よろずスタジオのご紹介>>

よろずスタジオは、来館の皆さんが気軽に参加でき、自然の様々な分野から学んでもらうワークショップ形式の企画。友の会のスタッフと博物館の学芸員がアイデアを出し合って進めていきます。本物に触れ、専門家に直接質問できる、博物館ならではの催しです。



会場風景

「虫の探し方」



「ほねほねクイズ」



—2024年度の予定—

- 4月14日・・・ほねほねクイズ
- 6月23日・・・身近な菌類
- 9月15日・・・貝の中をみてみよう
- 11月17日・・・葉っぱであそぼう
- 2月16日・・・アンモナイトをなぞろう

日曜日 13時から15時
参加無料、当日受付の自由参加

活動報告（植物グループ）

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2023年11月25日（土）／博物館～吾性沢方面／
8名（スタッフ3名含む）／担当：植物グループ

まずは集合場所からいちばん「身近な」植込みをのぞいてみました。ツゲの根元にホシダが目についたので、参加者に「シダはどうですか？」と尋ねると、興味を持たれた様子です。前回の観察会で見た植込みのマツバラを探しに行かれる方もあり、植込みの脇でオクマワラビとイヌワラビを見つけてスタッフの解説を熱心に聞かれる方もあり、という状況になったので、今日の観察会の基調はシダという流れになりました。タチシノブ、マメヅタ、オオイタチシダ、ベニシダ、ノキシノブ等々10数種を紹介しました。

なかでも人気が出たのがカニクサです。

2メートルを超えるツルになっていました。そこに細かく切れ込んだ葉が付いているように見えるけれど実は全体が一枚の葉であること、縁に孢子嚢が付く羽片と付かない羽片とは形が異なることなどの解説に興味深く反応を示されました。



カニクサの孢子のうはちょっと変わった形で、葉の縁に付く

そして、その後の観察路の石垣に次々と小さなカニクサが出現するたびに、「またあった」、「これもカニクサ」と声が上がりました

さて、花の少ない時期に咲き始めていたのはビワです。「実は食べるけど花は見たことがない」という人も何人かいて、バラ科らしい5弁の花はとにかく、ガクや花柄にもふもふと毛が生えているのに驚きの声が上がりました。



5弁のビワの花。萼（がく）や花柄には、もふもふと毛が生えている

また、チャノキ（茶の木）の花も満開でした。「チャノキは雌雄異株ですか？雄しべはいっぱいあるけど雌しべが見えないんですけど…」の声に、じっくりルーペ片手に探してみると、ありました！柱頭（雌しべの先端）が3つに分かれているのを初めて確認しました。（松井宏明）



チャノキ。多数の雄しべと先っちょ（柱頭）が3つに分かれている雌しべ（わかるかな?）



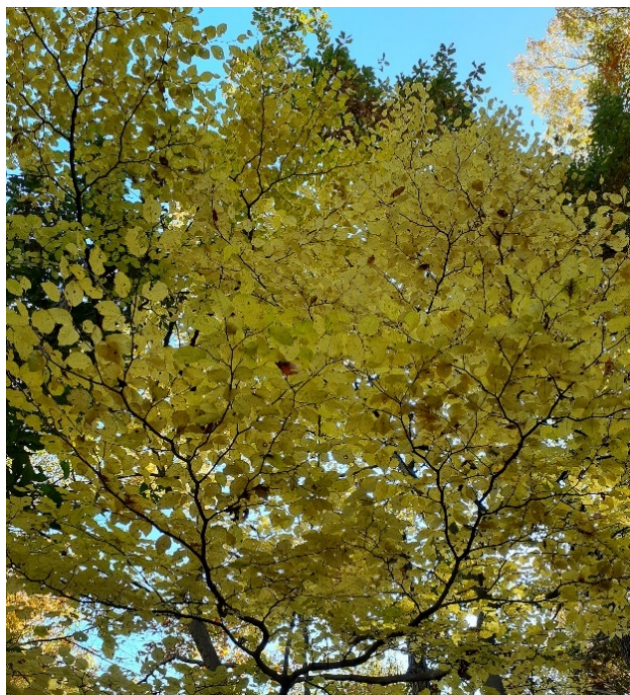
ビワの樹の下の観察風景

◆植物観察会「晩秋の里山を歩こうー八王子市長沼公園」

2023年11月28日(火)／八王子市長沼公園／スタッフ含めて15名／担当：植物グループ

長沼駅に集合し、挨拶と簡単な自己紹介の後、長沼公園登山口まで移動し、公園入口広場で案内板のコース図を見ながら観察路の確認をした。今日のコースは栃本尾根を登り、展望広場で昼食、下りは殿ヶ谷の道を下りてくるコース。黄色や赤に色づいた樹々を愛でながらまた林縁の植物を観察しながら階段を登って行った。すでに花期が過ぎてはいたが、コバノガマズミやヤブムラサキなどの鮮やかな果実が目を楽しませてくれた。

沢沿いから尾根道に出たところでアオハダやネジキ、コウヤボウキなどが出てくる。ネジキのねじれた樹皮の様子や果実などを観察。黄色く染まったアオハダは青い空に良く映えていた。アオハダでは短枝を観察、確認した。



アオハダの黄葉

足元にはコウヤボウキがたくさんあり、1年枝の先に花をつけること、2年枝と1年枝の葉の違い、また2年枝の長く伸びた枝の節から発根し株ができていることがあると知り、みんなで新しい株探しをした。近くにナガバノコウヤボウキもあり、植物全体の姿、葉や花の付く位置の違いなど、コウヤボウキと比べながら観察。尾根道には手の届くところにたくさんの樹木があり、次々に興味がわく植物が出てくる。カバノキ科のイヌシデ、アカシデ、クマシ

デも近くにあり葉の形だけでなく果実も見ることができた。葉をすっかり落としたナツハゼには濃紺色の果実がびっしりとついていた。

昼食は展望広場、11月末とは思えない穏やかな秋晴れに色とりどりの葉が青い空に映えていた。午後は殿ヶ谷の道を下った。ここではヤマノイモも見られ、午前中観察したヒメドコロやオニドコロと合わせ3種の果実や種子の違いを確認することができた。

色鮮やかなモミジの中を下り沢沿いに出ると、キチジョウソウが私たちを迎えてくれていた。



色鮮やかなモミジの中を抜けて・・・

近くにはトキホコリがあり、県内では分布が限られていると聞き、皆さん腰をかがめてカメラに収めていた。

このあと、アワブキの赤い果実を観察して今日の観察会を終了した。

(佐々木あや子)



県内では珍しいトキホコリ



目の高さで見られたアワブキの果実

活動報告（地学グループ）

◆地学 G 地質観察会「鳥瞰図で歩く湯河原」
2023年12月17日（日）／湯河原町／19名（講師・スタッフ6名含む）／講師：新井田秀一学芸員（県立生命の星・地球博物館）、武田周一郎学芸員（県立歴史博物館）

◆ 観察コース概要

当日講師から配布された「仙境湯河原温泉案内図絵（金子常光／昭和3～5年頃の作）」と「当時の写真」「現在の地図」を手に、図絵に描かれた十数ヶ所の名所を巡り歩きました。

集合場所の不動の滝から藤木川に沿ってバス通りを下流に向かい、途中で清滝や万葉公園方面に立ち寄りました。昼からは藤木川から離れて旧道沿いに進み、最後は五所神社に参拝して。湯河原駅で解散しました。



今観察会の起点となった不動の滝の前で

◆ 図絵と現状の対比

約一世紀前の図絵通りに残っていた主な名所は、不動の滝、だるま滝、清滝、藤木川、富士屋旅館、熊野神社、湯河原公園（万葉公園）、バス道路と橋、千歳川、小学校、五所神社、湯河原駅などです。

現場に見られず、現存しないと確認した建物などは、大師堂、水力発電所、はさみ石、見附の松、湯河原キネマ（映画館）です。

図絵にはない建造物は、高層のホテルやマンション、湯河原美術館、観光協会、源泉櫓（やぐら）、温泉貯湯タンク、湯河原総湯施設、バイパス道路などでした。



温泉との関わりが深い熊野神社の社前で

◆ 感想

鳥瞰図絵1枚の観光案内としての情報量の多さと精巧さに感動しました。東京から箱根山、富士山までを広域に俯瞰し、当の湯河原温泉は滝、神社、温泉旅館群などが細密に描かれています。絵図に付記された解説により更に分かりやすくなっています。

図絵と現状を対比することで、湯河原温泉の歩んできた歴史が体感できました。温泉や滝などの自然の恵みや神社は当時のままであった一方で、変化も確認できました。例えば湯河原温泉を支える源泉に関して。今回見たシンボルのような「源泉櫓」は自噴源泉にポンプ汲み上げ方式が加わった開発実績を、また複数の大きな「貯湯タンク」は枯渇問題を背景に持続化工夫策として導入された共同給湯システムの実態を、それぞれ理解させてくれました。

貴重な観察会の機会をありがとうございました。
（小川 潤）

活動報告（地図を楽しもう）

2024年1月20日（土）／博物館実習実験室／3名
／講師：新井田秀一学芸員（県立生命の星・地球博物館）

当日の天気予報の降水（雪）確率が50%と、フィールドワークの実施が危ぶまれる状況で当日を迎えました。すでに朝から雨天です。前もって参加される方々には雨天バージョンプログラムもある旨をお知らせしておきましたので、当日の混乱はありませんでしたが、皆さん残念がっておりました。

毎回この講座では講師の新井田さん、「地図は見るものではなく、読むもの」を力説。本講座ではこの「地図を読む」とはどのようなことなのかを体験していただくことで毎回開催しております。地図を持って野外に出たら①周りをよく観察する、とくに今いる場所に何があるのかまわりをよく見る。②わからなくなったら立ち止まる、③地図とまわりのものをよく見比べる。これが、地図を読むための極意だそうです。

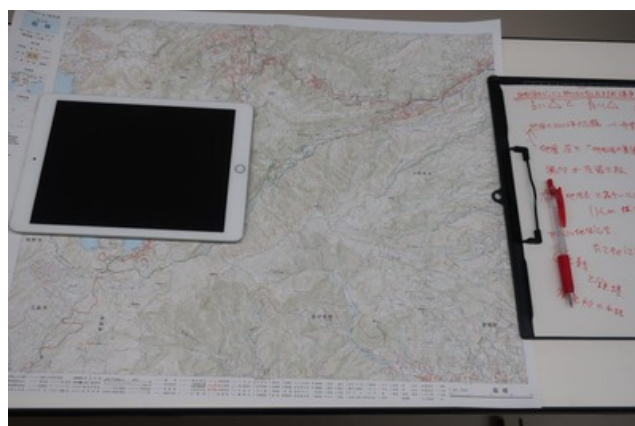
いつものように午前中は講義、本日は午後屋内実習です。テキストは国土地理院地形図2万5千分の1「箱根」です。地形図の図法、縮尺、地図記号、図上の真偽、等高線などについて学びました。実際の景観と地形図に描かれ方の違い、その際どのような点に気を付けるのか、どんな目標物が地図を読むうえで便利なのかを教えていただきました、とくに目印になるのは「送電線と鉄塔」。比較的よく見えて、どこから来て、どこへ行くのか、実際の現地の様子と地図上とで見比べることが容易にできるので、重宝するそうです。これを聞いて、参加者の皆さん強く納得していました。

午後は新井田さんの近年の研究テーマの吉田初三郎作成の鳥観図を見て、参加者の皆さんとトークセッション。用意されたのは戦前、昭和5年頃の陸軍陸地測量部作成の箱根周辺の5万分の1地形図、それと昭和10年頃の神奈川県下を中心とした交通網や観光名所を紹介したおおよそ2m×5mの大鳥観図です。鳥観図は吉田初三郎独特の筆致で描かれていて、眺めているとぐいぐい引き込まれていきます。参加者の諱さん、戦前も第1級の観光地であった横浜、鎌倉、箱根、湯河原に興味を持たれ、新井

田さんとのやりとりで、地図の奥深さを十分堪能されていました。（関口康弘）



午前中は地図の基礎をわかりやすく学ぶ



タブレットを使って読図をおこなうことも



吉田初三郎鳥観図部分（箱根・小田原・湯河原）

行事案内

◆ 植物観察会

「里山・北八朔公園に春の植物を訪ねよう」

横浜市内にこんな自然が----、キンランやギンラン、ワダソウ、タチツボスミレなど身近な里山で新緑を浴びながら春の植物達を訪ねましょう。

実施日：4月15日（月） 雨天中止

場 所：横浜市緑区北八朔公園

集 合：東急田園都市線青葉台駅

北口改札前 10：00（10：11 発バス乗車）

コース：園内を散策

解 散：バス停（青葉台駅、中山駅行き）14：30 頃

講 師：田中徳久氏 当館館長

対 象：オープン（どなたでも） 大人 20 名

参加費：会員 500 円 非会員 700 円

申込み：今回から友の会の WEB フォームによる申し込みに変ります。今までの植物グループの申し込みアドレスは使わずに最終ページの「友の会主催行事参加申し込みについて」に記載の WEB フォームで4月7日までに申し込みください。
メールアドレスの無い方は4月4日～12日の19：00～21：00の間に電話で申し込んでください。

電話申込先：山田 090-3394-5101

当日連絡先：山田 同上

小久保 090-4136-3025

* 詳細はメール等でお知らせします。



キンラン（ラン科）

◆ よろずスタジオ

対 象：どなたでも

申込み：不要／オープン

参加費：無料

場 所：博物館1階 東側講義室

「ほねほねクイズ、この骨だーあれ」

日 時：4月14日（日）13：00～15：00



以前の開催の様子

「そこにも！ここにも！菌類が」

日 時：6月23日（日）13：00～15：00



以前の開催の様子

◆ 植物観察会 『身近な植物観察入門』

5年目を迎えた、博物館周辺を歩き身近な植物を観察する、初心者中心の気楽で楽しい会です。
会員以外の方も大歓迎です。

日 時：4月27日・5月25日・6月22日

各月の第4土曜日です

（連続して出る必要はありません）

集 合：博物館正面 前庭 10時

解 散：同所 12時頃

参加費：50 円（保険料）

講 師：友の会植物グループ

対 象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴でお願いします

持ち物：飲み物・雨具など（お持ちの方は虫メガネ・ルーペ等の拡大鏡）

申込み：友の会のWEBフォームで

申し込み開始は友の会通信到着後から

締め切りは下記電話の場合と同じ

メールを使わない方は各月担当者へ電話で
下記の期間内の18時～21時

- ・4/27 観察会：岩切 090-5807-7744
申込：4/23（火）～4/25（木）
- ・5/25 観察会：松井 090-7411-5024
申込：5/21（火）～5/23（木）
- ・6/22 観察会：佐々木 090-6518-7296
申込：6/18（火）～6/20（木）

問合せ：上記電話申込み担当者へ（18時～21時）
（博物館には問合せないで下さい）

雨天その他の事情で中止の場合は、申し込んだ方に
担当者から電話連絡いたします。

◆ 植物観察会「大雄山最乗寺の初夏の植物」

深山の雰囲気漂わせる大雄山最乗寺の寺領で、
初夏の植物を訪ねます。県内では箱根・丹沢に分布
が限られるナベワリやヤマトグサの開花に出会えたら、
ラッキー！

日 時：5月7日（火） 雨天中止

場 所：南足柄市大雄町

集 合：大雄山線大雄山駅改札 9：50

小田急線利用の方：新松田駅から関本（大雄山）
行きのバスが出ています。

解 散：最乗寺 道了尊バス停 14：30頃

講 師：田中徳久氏 当館館長

対 象：オープン・大人20名

（応募多数の場合抽選）

参加費：友の会会員 500円

会員外 700円

申込み：今年度から友の会のWEBフォームでの申
込に変わりました。最終ページの「友の会
主催行事の参加申し込み」に従って
4月24日までにお申し込みください。

メールアドレスの無い方は4月22日～24
日の18:00～20:00の間に松井（0466-87-
8325）まで電話で申し込んでください。

当日の連絡先：松井（090-0711-5024）

石橋（090-2159-4752）

*状況によっては、募集人数の変更や、観察会の
中止をする場合があります。



ナベワリの花

◆ 地質観察会

「箱根火山前期中央火口丘溶岩と地形の観察」

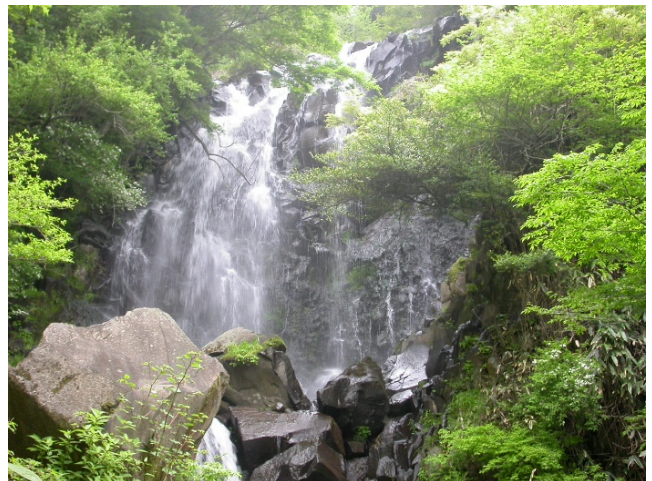
日 時：6月1日（土）

場 所：箱根

講 師：当館学芸員 山下浩之氏・西澤文勝氏

対 象：友の会会員

備 考：詳細はチラシにて



前期中央火口丘溶岩がつくり出す飛竜ノ滝

◆ 第140回サロン・ド・小田原

「クジラー海に棲む哺乳類とその調査ー」

話題提供：西村双葉 氏 当館学芸員

日 時：5月25日（土）14：00～15：30

受付は13：40から

場 所：博物館1階 西側講義室

対 象：オープン

申込み：当日受付制（45名先着順）

参加費：無料

内容紹介

鯨類（クジラやイルカの仲間）は、私たちと同じ哺乳類でありながら一生を水中で暮らすグループです。鯨類とはどのような生物なのでしょうか。また水中で暮らす彼らを知るために、どのような調査研究が行われているのでしょうか。今回の講演では、鯨類の特徴や生態の紹介に加えて、鯨類を知るための調査についてお話しします。



漂着・座礁個体の調査。2022年に小田原市に漂着したクジラの種や特徴を記録している様子です



当館展示室の鯨類全身骨格。種によって大きさもかたちも様々です

◆ 植物観察会

「ケイワタバコに会いに行こう」

箱根宮ノ下の早川沿いにある堂ヶ島溪谷遊歩道をゆっくりと歩きます。次から次に現れるケイワタバコの群落を堪能いたしましょう。ケヤキ、イロハモミジなど緑豊かな溪畔林も楽しめます。

実施日：6月26日（水） 雨天中止

場 所：箱根町宮ノ下堂ヶ島溪谷

集 合：JR小田原駅 改札口前 9：00

東口バス停から宮ノ下までバス

コース：宮ノ下バス停から早川沿いに木賀温泉入口バス停まで歩きます。

解 散：バス停 木賀温泉入口 14：30頃

一緒に箱根湯本、小田原方面バスに乗ります。

講 師：田中徳久氏 当館館長

対 象：オープン（どなたでも） 大人20名

参加費：会員500円 非会員700円

申込み：今年度から友の会のWEBフォームでの申込に変わりました。最終ページの「友の会主催行事の参加申し込み」に従って6月19日までにお申し込みください。

メールアドレスの無い方は6月15日～19日の19：00～21：00の間に電話で申し込んでください。

電話申込先：小久保 090-4136-3025

当日連絡先：小久保 同上

田畑 080-5645-7987

*詳細はメール等でお知らせします。



ケイワタバコ

◆ 行事名：「2024年6月地話懇話会」

演 題：『世界の地形と地質。こんなところに行って、見てきた！（仮題）』

話題提供者：前当館館長 平田大二氏

日 時：6月26日(水)14:00～15:30

受付は13:40から

場 所：博物館1階 西側講義室

対 象：友の会会員

申 込：当日受付制（人数制限は設けません）

備 考：マスク着用については、個人の判断にてお願いいたします。

内容紹介

博物館に勤めた44年の間に、海外の博物館視察をはじめ地質調査や学会参加、観光旅行などで33ヶ国を訪ねる機会がありました。

思い起こせば高校生の頃、ただ漠然と世界に行きたいと夢を描いていましたが、図らずも大学で地質学を専攻し、運よく博物館に就職できたことにより、その夢がかないました。

見たこともない絶景や教科書にあった有名な地層や露頭、そして博物館に所蔵されている岩石・鉱物・化石などなど、百聞は一見にしかずといいますが、まさしくその通りでした。

地話懇では、その中から特に思い出に残る場所についてお話しします。



ハットンの不整合（スコットランド）



ウィーン自然史博物館（オーストリア）

友の会主催行事の参加申し込みについて

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合
往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。

■必事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください。

◆現在、一部の講座でWEBフォームによる申込受付を行っています。以下のQRコード又はURLよりアクセスして、申込をしてください。

URL：<https://forms.gle/vhwLnSYGYXojkWHLA>



注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープン行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

次号は、2024年6月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.27、No.4、通巻123号 2024.3.15 発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo

Twitter：@kpmtomo